

KVK シングルレバー式混合栓 MSL190D(L)EM 〈各仕様共通〉 施工説明書

施工前にこの施工説明書をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
 施工後は、お客様へご使用方法を十分ご説明のうえ、この施工説明書と取扱説明書をお客様へお渡しください。

安全上のご注意

施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。

人への危害、財産の損害を防止するために、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った施工をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

警告 「死亡または重傷」に結びつく可能性があります。
注意 「傷害または物的損害」に結びつく可能性があります。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。

禁止 してはいけない「禁止」の内容です。
必ず実行 必ず実行していただく「強制」の内容です。

警告

禁止 湯水を逆に配管しないでください。
 水を出そうとしても、湯が出てやけどをすることがあります。
 必ず給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確かめてください。

禁止 給湯温度は85℃より高温で使用しないでください。
 給湯器の給湯温度は60℃以下の設定をおすすめします。
 85℃より高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損して、やけどをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

禁止 この商品を構成する部品以外の取り付けや、部品の取りはずし等の改造はしないでください。
 器具が破損し、やけど・けがをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

禁止 配管などの解氷のため、解氷機を使用する場合は、水栓(給水・給湯管含む)には絶対に通電しないでください。
 通電すると水栓や給水・給湯管が発熱し、破損して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

禁止 [寒冷地域でご使用の場合]
 水抜き栓は水抜き以外の目的で開けないでください。
 水抜き栓をいきなり開けますと高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が噴き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

注意

禁止 器具に強い力や衝撃を与えないでください。
 器具が破損し、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

禁止 器具をぶついたり落としたりしないでください。
 鋭利な物や硬い物を当てないでください。
 塗装面が傷つき、剥がれによりけがをするおそれがあります。

禁止 配管接続部をテーパねじに接続しないでください。
 テーパねじに接続すると、接続部がゆるんだり、パッキンが切れたりして、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

必ず実行 塗装の表面が割れた場合は使用しないでください。
 けがをするおそれがありますので、ただちに使用を停止し、新しい部品に交換してください。

必ず実行 止水栓取り付け箇所や給水・給湯管との接続箇所は、点検口を設けるなど点検しやすい状態にしてください。
 点検ができないと万一漏水発生時には発見が遅れて家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

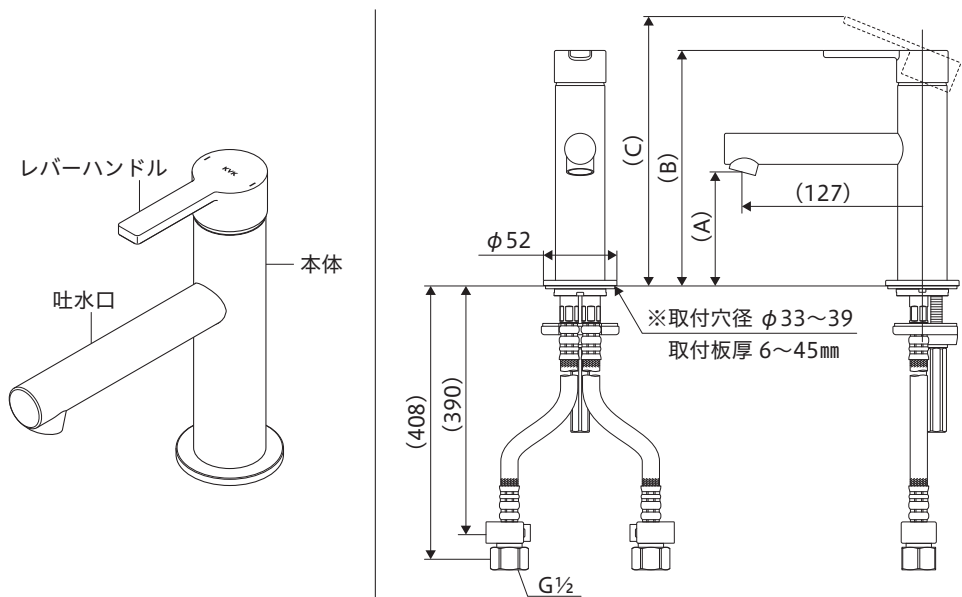
必ず実行 小型電気温水器(即湯器)等に給湯ホースを接続する際は、ステンフレキ管等を介してください。
 高温の熱により給湯ホースの寿命が短くなり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

必ず実行 凍結が予想される際は、一般地域でお使いの場合は少量の水を出しておくか配管に布を巻くなどして凍結を防止してください。
 寒冷地域でお使いの場合は配管の水抜き操作と水栓金具の水抜き操作を行ってください。
 水抜きしないと凍結破損で漏水し家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

1 取り付け前に

- ① 使用水圧 (A= (給湯器の最低作動水圧) + (配管圧力損失))
 - (1) 瞬間給湯器との組み合わせ (設定条件 水温: 25℃/給湯器温度調節: 高温/吐水温度: 42℃/ハンドル全開(比例制御式) 最低必要水圧: A+0.1MPa(動水圧)、最高水圧: 0.75MPa(静水圧)
 - (2) 貯湯式給湯器との組み合わせ (給湯・給水圧力) 最低必要水圧: A+0.08MPa(動水圧)、最高水圧: 0.75MPa(静水圧)
- ② レバーハンドルは全開で使用してください。給湯器が着火しない場合があります。
- ③ 誤操作などによるやけど防止のため、給水圧力は給湯圧力より高くするか、同圧になるようにしてください。
 給水圧力と給湯圧力の差が大きすぎると、逆流または適正な吐水温度が得られず、温度調整が容易にできなくなることがあります。その場合は逆止弁付ジョイント(別売)を取り付けてください。
- ④ 給水圧力が0.3MPaから0.75MPaまでは止弁で流量調節してください。
- ⑤ 給水圧力が0.75MPaを超えるときは、市販の減圧弁で0.2MPa程度に減圧してください。
- ⑥ やけど防止のため、給湯器の給湯温度は60℃以下の設定をおすすめします。
- ⑦ 給湯器からの配管は抵抗を少なくするため、最短距離で配管し、配管には保温材を巻いてください。
- ⑧ 使用諸条件を加味して適正な能力の給湯器を選ばないと、適正な吐水量及び吐水温度が得られないことがあります。
- ⑨ 本製品は、改造(構成する部品以外の取り付けや部品の取りはずし、止水機構を持った浄水器や止水機構を持った後付けの水栓ユニットの取り付け等)によるトラブルについては、保証の限りではありません。
- ⑩ 水道水および飲用可能な井戸水を使用してください。
- ⑪ 通水検査をしていますので器具内に水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。

2 取り付け完成図と各部の名称 / 寸法図



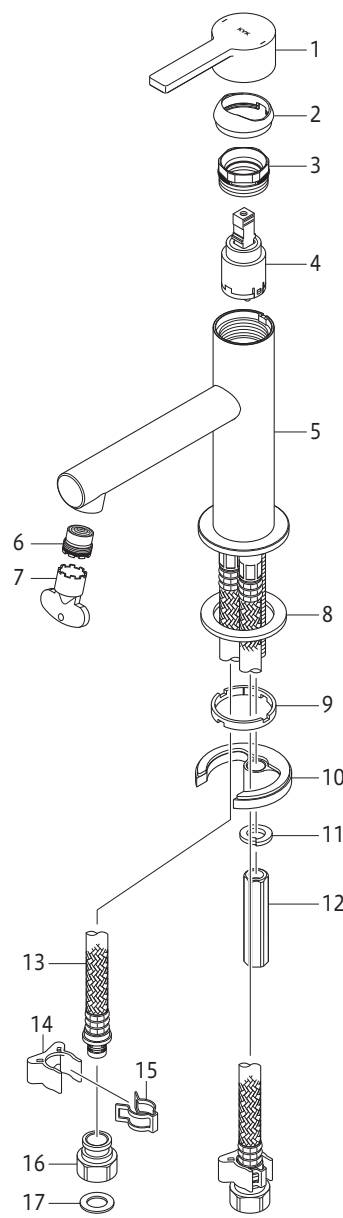
品番	A	B	C
MSL190DET	81	167	191
MSL190DLET	181	267	291

※取付穴径の対応方法は5ページの「本体固定前の確認」を参照ください。

3 分解図(部品の形状は仕様により異なります)

この分解図は製品説明図であり、サービス部品の単位を示すものではありません。

- 1 レバーハンドル
- 2 化粧カバー
- 3 固定ナット
- 4 カートリッジ
- 5 本体
- 6 泡まつ器
- 7 取りはずし工具
- 8 シートパッキン
- 9 ガイドリング
- 10 本体固定座金
- 11 ばね座金
- 12 取付ナット
- 13 ブレードホース
- 14 保護キャップ
- 15 クイックファスナー
- 16 ジョイント
- 17 パッキン
- 18 逆止弁付ジョイント(別売)
- 19 パッキン(別売)
- 20 ストレーナ付逆止弁ユニット(別売)



※給水圧力と給湯圧力の差が大きく逆流するおそれがある場合には、逆止弁付ジョイント(別売)またはストレーナ付逆止弁ユニット(別売)を取り付けてください。

寒冷地域でご使用の場合

一般地域でご使用の場合

4 取り付け手順

1 止水栓(別売)・逆止弁付ジョイント(別売)・ストレーナ付逆止弁ユニット(別売)の取り付け、給水管内の清掃

① 給湯管と給水管の間隔は200mm程度で取り付けます。止水栓はストレーナ付が最適です。寒冷地域でお使いの場合は水抜き栓付止水栓を取り付けてください。

ストレーナ付止水栓 水抜き栓付止水栓

② 止水栓取り付け後、必ず給湯・給水管内を清掃してください。市販のフレキホース等を止水栓に接続し、ゆっくりと止水栓を開け、給湯・給水管内のごみ、砂等を洗い流してください。
【注意】 給湯・給水管内の清掃を行わないと、ごみ・砂等が本体に入り、故障の原因となります。

市販のフレキホース等 止水栓(別売)

③ 湯水の圧力差がある場合は逆流するおそれがあります。その際は逆止弁付ジョイント(別売)、またはストレーナ付逆止弁ユニット(別売)を取り付けてください。

- 一般地域でお使いの場合：逆止弁付ジョイント[KPS1917](別売)
- 寒冷地域でお使いの場合：ストレーナ付逆止弁ユニット[Z420552](別売)

逆止弁付ジョイントの締め付けトルクは約2000N・cmです。

一般地域の場合 寒冷地域の場合

逆止弁付ジョイント(別売) ストレーナ付逆止弁ユニット(別売)

2 本体固定前の確認

① 洗面台の水栓取付穴径と取付板の厚みを確認してください。

●穴径がφ33～φ39の範囲であること
●板の厚みが6～45mmの範囲であること

上記の範囲以外の場合、取り付けできません。

② 穴径によるガイドリングの使用有無を、下記を参照し確認してください。
※ガイドリングは同梱されています。

取付穴径 φ33以上φ37未満の場合	取付穴径 φ37以上φ39以下の場合
ガイドリングは使用しません	ガイドリングを使用します

ガイドリングはシートパッキングのセパレート紙をはがした後に、取り付けてください。
【注意】 本体の固定 参照)

ガイドリング(同梱)

4-2

② ブレードホースのつばとジョイントのつばがすき間なく合うまで差し込んでください。

【注意】

- ブレードホースはR60以上の大きな曲げ半径になるように曲げてください。鋭角に曲げたり、混合栓根元で曲げたりしないでください。(A図)
- 急に曲げたり折ったりすると、亀裂や破損を起こし、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
- 上下戻り配管はやめてください。(B図)ウォーターハンマーなどでブレードホースが振動した際、屈曲部からの水漏れ発生の原因となります。
- ブレードホース同士などへの不要な接触は避けてください。摩耗による外傷で、ホース性能の劣化の可能性があります。

【お願い】 ブレードホースは切断しないでください。

③ クイックファスナーとブレードホースとジョイントのつばにはめます。

【注意】 ブレードホースを上引っ張って、抜けないことを確認してください。しっかりはまっていなくて漏水して家財などを濡らすおそれがあります。

④ クイックファスナーに保護キャップをはめます。この時、保護キャップはブレードホースにはめてから、クイックファスナーまでおろします。

一度はずしたブレードホースを再接続する場合

- レバーハンドルを全開吐水状態で湯水に振り、湯側・水側それぞれのブレードホース内の水を抜いてください。
- 混合位置でレバーハンドルを開にした状態で、「4 止水栓との接続」に従いブレードホースを接続してください。

【注意】 ブレードホース内の水を抜かないと、正しく施工できなかったり、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。

3 本体の固定

① 本体裏側のシートパッキングのセパレート紙をはがし、ガイドリングを必要に応じて本体の根本(ねじ部)に奥まで完全に取り付けます。(ガイドリングの有無は「2」を参照し確認してください。)

【注意】 セパレート紙は必ずはがしてください。セパレート紙をはがさず固定した場合、本体が緩んだり、がたつきが発生し、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。

② 取り付け穴周囲の汚れを取り除いた後、吐水口が正面を向くように本体を差し込みます。

③ 本体の止めねじに平らな面を向けた本体固定座金を奥まで通します。

④ ばね座金を止めねじに通し、取付ナットを締め付けて本体を固定します。

【注意】

- 本体を手でしっかりと保持してください。レバーハンドルや吐水口を持って締め付けますと破損し、漏水のおそれがありますのでこれらは持たないでください。
- 取付ナットの締め付けは、専用工具G30(別売)で確実に行ってください。締め付けトルクの目安は1000N・cmです。しっかり締め付けられていないと、本体が緩んだり、がたつきが発生し、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
- 水栓の塗装面に工具をかける場合は必ず柔らかい布をあて、本体に直接工具をかけないでください。傷がつくおそれがあります。

4-1 止水栓との接続

① ジョイントを止水栓に接続します。

【逆止弁付ジョイント(別売)等を取り付けた場合】
逆止弁付ジョイントなどが止水栓に取り付いている場合は、共回りしないように、別スパナで二面幅を固定しながら、ジョイントを逆止弁付ジョイントに接続します。

【注意】

- 接続は適切な工具(スパナ等)で締め付けてください。締め付けトルクの目安は約2000N・cmです。締め付け不足や締め付け過ぎると、漏水の原因となります。
- 薄肉の接続管(ニップル等)にはジョイントを接続しないでください。パッキングが切れ、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
- 止水栓がしっかり固定されていることを確認してください。固定されていないとブレドホースが抜け、漏水の原因となります。

逆止弁無仕様の場合 逆止弁付ジョイント(別売)等を取り付けた場合

5 取り付け後の点検と清掃

5-1 通水確認

【注意】 水栓取り付け後、通水して湯水の出し止めを5～6回繰り返して、配管接続部および水栓から水漏れがないことを確認してください。確認しないと、漏水で家財などを濡らすおそれがあります。

5-2 泡まつ器清掃のお願い

泡まつ器は施工後必ず清掃してください。泡まつ器にゴミ等がつかると、吐水量が減ったり、きれいに流れなくなったりします。また、給水・給湯圧力条件によっては逆流または、温度調整が容易にできなくなる場合があります。

➡ 取扱説明書「日常のお手入れ」参照

5-3 止水栓による流量の調節方法

流量が多すぎる場合などは、下記の方法で止水弁を操作して流量を調節してください。時計回りに回すと流量が少なくなり、いっぱいまで回すと止水します。また、反時計回りに回すと流量が多くなり、いっぱいまで回すと最大流量になります。レバーハンドルが全開吐水で適量(湯側・水側それぞれが4L/min程度)になるように止水弁で調節します。水圧が低く、全開吐水で適量が得られない場合は、止水弁を最大流量にしてください。

6 故障かなと思ったら

修理を依頼される前にお確かめください。

➡ 取扱説明書「故障かなと思ったら」参照

水栓本体内部のメンテナンスをする場合

【注意】

- 修理技術者以外の方は水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因となります。水栓本体内部のメンテナンスは、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご依頼ください。
- メンテナンスは、しっかりと本体を保持しながら行ってください。レバーハンドルや吐水口を持ってはしめずと破損し、漏水のおそれがありますので、これらは持たないでください。
- 工具を固定ナットにかけるときは、本体を傷つけないよう布等をしてください。